

2026年4月30日(木)に小規模交流勉強会を開催いたしました。



【藤崎氏】

2026年4月30日(木)に、第18回小規模交流勉強会を開催しました。

米国第一主義「MAGA」を掲げるトランプ政権は、次々に国際機関から離脱し、トランプ関税を各国に強要し、加えてイラン戦争の勃発により、世界は益々混沌とし緊張状態が非常に高まっております。日本は、米国および中国との向き合い方を今後どのようにしていけば良いのかと心配もいたします。

こうした世界情勢を踏まえて、社団参与で会員の元駐米大使の藤崎一郎さんをプレゼンターにお招きし、「日米中関係とトランプ政権」と題して勉強会を開催いたしました。いつもの通り、チャタムハウスルールに則して自由活発な意見交換の「学びの会」となりました。



【勉強会の様子】

勉強会では、藤崎さんから資料「アメリカ紙芝居」という仕掛けが用意され、藤崎さんがナビゲーターも兼ねる異例のスタート。藤崎さんと参加の皆さんとの小気味良いキャッチボールから始まりました。紙芝居には「前門の虎、後門の狼」「泣く子と地頭には勝てぬ」「踏み絵」などの絵が用意され、外交の要諦を比喻された解説に皆さんは一同に腹落ちしていました。日本と米国の経済力と相互依存関係を見るに、日本は他国をはるかに凌ぐ米国との深いパートナーであることを改めて知ることができました。

最後の懇親タイムでは、話題が教育論から若者の世界観へと進み、そしてインドからアフリカまでに展開し、予想外の大きな学びとなりました。

参加者から質問が矢継ぎ早に飛び交い、藤崎さんは一つ一つ丁寧に答えられました。

「現下の政権支持率と今後の中間選挙の動向」「5月米中首脳会議の行方」「緊張関係にある米中に挟まれた日本の立ち位置」「米国の建国理念、自由と平等の価値観と規制」「企業人が堪能な英語力を学ぶためには」「トランプ政権を担う現閣僚の今後」「トランプ3.0の可能性」など。

まるで、ハーバード大学名物教授マイケル・サンデル氏の白熱教室さながらの活気溢れる熱い勉強会となり、皆さんから次のような感想が届きました。

「思い込みから脱却し米中関係など地政学リスクの視点を学んだ」「日米関係に関して報道されていない裏側の事情や政府要人の当時の心理状況が学べた」「先生の明快な説明を受けた参加者からも有用なコメントを頂いた」「敵を欺くにはまず味方からという意表を突くスタートでユーモアたっぷりの紙芝居に感謝します」など。

立ち上がりの意表を突く展開で、ナビゲーター役を失職した専務理事は暫し写真撮りを忘れておりましたが、最後に参加者が皆主役となった化学反応を見届けて、今日も参加者だけが共有できる本物・本音・本質の「学びの場」を提供できたと安堵しました。

次回は5月21日に社団会員の糟谷敏秀さん(東京ガス副社長)をプレゼンターにお招きし「脱炭素時代のエネルギー戦略ー安定供給・競争力とどう両立させるかー」の勉強会を開催する予定です。引き続き、どうぞよろしくお願ひ申し上げます(永峯記)。



【記念写真】